1月24日

読書

柔らかな海峡

金　恵京著

荒れた海に知性で臨む

集英社インターナショナル　1,620円

冬の日本海は荒れる。その名称や竹島（独島）の帰属、慰安婦問題、世界遺産登録、安倍首相による戦後70年談話などをめぐって、日韓の間で対立が続いている。いつ穏やかになるのか、先行きが見えない。東シナ海や南シナ海でも、日中や米中の間で年中、波風が立つようになった。

海は古来、人やモノが自由に行き交うルートだが、東アジアも近代国際法システムに編入されると、国境をかたちづくり、彼我を分けるようになった。そんな中、韓国で生まれ、日本で学び、教えている著者のように〝あいだ〟に踏みとどまろうとすると、「どちらの側につくのか」という踏み絵を強いられる。だが、日本で目につく外国人の発言は、出身国や国籍国を代弁し

街娼　パンパン＆オンリー

マイク・モラスキー編

複雑な感情 想像させる力

皓星社　1,836円

敗戦後、連合国軍に占領された日本には、米兵専門の街娼がいた。彼女たちは「パンパン」と呼ばれた。「オンリー」は特定の米兵と愛人契約を結んだパンパンのことだ。

パンパンをめぐる小説は終戦直後から登場し始め、GHQの占領が終了し検閲も解かれた1952、53年ごろにブームを迎えたが、時代が下るにつれ「パンパン」という言葉は死語に近づいていき、作品数も漸減していった。そして大半は忘れられた作品となった。本書は、戦後文学史に埋もれたパンパン小説の中から「戦後社会の裏面史に光を当てながら、〈売春〉という複雑な問題を根源的に考え直すきっかけになる作品」をえりすぐったアンソロジーである。次の８編を収める。

残響のハーレム

中村　寛著

米国イスラム教徒の実相

共和国　3,672円

米国屈指の貧民街として悪名高いニューヨーク市のハーレム地区。著者は2002年から２年間、彼の地で綿密な現地調査を行い、イスラム教に改宗した黒人たちの生きざまに迫った。日本の文化人類学者としては初の本格的試みだ。

黒人解放運動の指導者マルコムXを暗殺したとして投獄された者から、コミュニティー再生に取り組む者まで、著者は一人一人の心のひだに深く寄り添い、そこから彼らの人生や社会、そして現代米国を取り巻く問題の核心を照射してゆく。

差別や貧困、暴力は相互に固く結びついた問題だが、しばしば法律や制度の形式的側面からのみ論じられがちだ。それに対して、著者は、直接的には可視化されにくい、より構造的・象

図書館司書が薦める こんな時この一冊

季節感を取り戻したい時に

白井明大文、有賀一広絵

『日本の七十二候を楽しむ　旧暦のある暮らし』

（東邦出版）

暖かく穏やかな正月三が日を過ごしながら、早すぎる農鳥の出現や花の便りを耳にした。厚手のコートも出番がなく、すっかり季節感が乱される中、カレンダーの「大寒」の文字を見て、「七十二候」を思い出した。

七十二候とは、二十四節気をそれぞれ3つに分け、その時季の草花や動物の動き、自然現象をそのまま表現した旧暦の言葉。中国から伝わったものに、日本ならではの風土の経験が織り込まれたもので、躍動感にあふれる一方、なんとなく生活感やのどかな雰囲気もただよう。ちなみに今日は節気「大寒」のうちの「款冬華さく」候にあたる。

本書は七十二候の解説のほか、各地の風物詩やこの時季旬を迎える食べ物など、さまざまな話題を提供してくれる。今日の候は？　自分の誕生日は？　偶然旅行のころは？　ページを読むのも興味深い。カレンダーの傍らに置いて、あらためて季節というものを感じたいと思う。

（県立図書館司書　大窪広美）

◇

県立図書館は2月7日午後2時から多目的ホールで「おんがくかいぶらりV」を開く。申し込み不要。問い合わせは県立図書館企画振興担当、電話055（255）1040。

毎月第２、第４日曜日に掲載します。

ヤングアダルト　Young Adult

「飛行士と星の王子さま　サン＝テグジュペリの生涯」　ピーター・シス文・絵　原田勝・訳

飛行士としての姿

アントワーヌ・ド・サン＝テグジュペリは、1900年にフランスで生まれた。時代は、ちょうど飛行機が発明されたころ。幼いころから飛ぶことに憧れ、郵便輸送機を操縦する飛行士の第一人者となった。その後、南米大陸に航空郵便路線を開拓する仕事に携わり、熱帯雨林や氷河の上をあちこち飛びまわる。しかし戦争が始まり、偵察機の操縦をすることに…。

この絵本は彼の生涯を、「飛行士」としての側面にスポットをあてて、描いた作品。子どものときに自身で飛行機の試作品を作ったエピソードをはじめ、サン＝テグジュペリの人柄をしのばせるさまざまなエピソードが、絵と文章で、年代順に分かりやすくもりこまれている。また、ときおりはさまれる文字のない見開きの画面はすいこまれるように美しい。アンデルセン賞画家賞を受賞した絵本作家、ピーター・シスが、豊富な情報と緻密な絵を組み合わせることによって、見事にまとめあげた一冊だ。（徳間書店・1836円）

BOOK出版

経営者の資質や務め提示

将来のビジョンが描けない、社員に危機感が足りない、基本業務がうまくいかないー。中小企業経営者の悩みに対し、大石豊司著「中小企業を長く続ける社長の指南書」（現代書林・1512円）は、会計事務所代表として「良い経営者」と接してきた著者が、解決の糸口となる考え方や行動を提示する。

著者は、経営者に求められる七つの資質として情熱やビジョン、営業力などを列挙。中小企業は大企業より社長の影響を社員が受けやすいため、社長の人格が問われる、との考えを示す。キャッシュフローをプラスにすること、局地戦を展開すること、客単価や顧客満足度を高めることなど経営の基本も解説する。

会社を「おとなの学校」に例える著者は「社員が人としても成長していける場だと思える職場作りも、経営者の務め」などと呼び掛ける。

著者は富士河口湖町生まれ。山梨県内の金融機関勤務を経て、税理士試験に合格し、現在は大石会計事務所（東京）の代表。今著は、ロングセラーとなった「経営以前の社長の教科書」の続編。

新刊紹介

２人の尚氏を中心に王国の盛衰と関連遺跡を紹介した歴史案内書。明朝への朝貢貿易を支えたのは那覇・久米村の中国人たちだが、中には琉球の日本人が関わったケースも。対日外交では国境を越えた禅宗ネットワークが活用された。（吉川弘文館・2160円）

■熊野　海が紡ぐ近代史　稲生淳著

和歌山県の高校などで世界史を教えた元教師が、熊野古道など山のイメージが強い熊野地方を、海の視点で捉え直そうとする意欲作だ。

米国船が江戸時代後期、初めて日本にやってきたのが熊野の海。遭難した外国船の乗組員を住民が手厚く看護し、員を採るためにオーストラリア北部の島へ多くの人が出稼ぎに行ったという事例から、「世界とつながる熊野」が浮かび上がる。自然が残された半島の魅力を再認識させてくれる一冊でもある。（森話社・2376円）